

学校法人 三幸学園
札幌医療秘書福祉専門学校

学校自己評価報告書
(平成27年度)

1. 学校の教育目標

本校の教育理念は「技能と心の調和」であり、目指す人材育成像は「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」である。

また、本校生徒のかかわる分野(医療・福祉・保育・薬業)では「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」になれるよう日々の学校生活から意識させる取り組みをしている。

この目標は全教員で共有し、日々の授業・行事等で意識して取り組んでいくようにしている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

平成27年度教務目標「身に付く学校 No.1・行きたい学校 No.1」

重点目標「皆精勤率の向上」を達成するために下記のことを取り組む。

- ・ 新入生に対してスタートアッププログラムを通して学校に来ることの大切さを落とし込む。
- ・ 各クラスの状況を共有し、皆精勤がよいクラスの動機づけ方法を学ぶ機会を設ける。
- ・ 皆精勤ランキングを掲示し、生徒のモチベーション向上を図る。また、良い意味で競争心を持たせる。
- ・ 生徒が皆精勤率向上を主体的に考えられる機会を設けるために委員会を設立。(ライフ委員会)

重点目標「退学率の低減」を達成するために下記のことを取り組む。

- ・ 新入生に対して入学前に保護者説明会を実施し、保護者に連携の大切さを伝える。
- ・ 毎週の会議にてクラス状況が相談できる時間を設け、退学予備軍を早期に発見できるようにする。
- ・ 教科担当が授業皆勤率を設定し、魅力ある授業展開を意識し、生徒が学校に来たくなる仕組みを作る。
- ・ 夢のスケッチブックを活用し、生徒が自ら目標を具体的に設定し、実行計画を立て日誌で振り返りを行う仕組みを作る。常に自分の目標を意識させ、目標を見失わせないようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 3 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

教育理念・育成人材像などは継続的に伝えていく必要がある。

業界のニーズを把握するためにも業界との繋がりを強化することが課題である。

② 今後の改善方策

「どのような人材が社会で求められるか？」を生徒に考えさせる時間を作る。

保護者には学校への理解を深めてもらうために接点を増やし、信頼関係を構築する。

求められる学校像に対して、正確に課題を見極めることで具体的な対策を掲げ、実践していく。

③ 特記事項

新入生は入学後すぐに高校生活とのギャップを感じ遅刻・欠席する生徒が多いため、早い段階でギャップを払拭させる必要がある。年度初めに実施する新入生入学前オリエンテーション・新入生保護者説明会で教育理念や学校の方針をより理解できる内容にしていかなければならない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

医療機関は分担作業をしているが全体像が分かっていると上手くいかないで全体像を把握することが大切。「何の目的でこれを行っているのか？」を理解させることが大切。

介護施設では「何のためにこの仕事を行っているのか？」「誰のためにやっているのか？」と考えてしまうことがあるので、職員に理念を定期的に周知している。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

今年度も WEB などの活用で情報のシステム化がなされ、業務の効率は上がったが、まだまだ業務改善や業務整理が必要である。

コンプライアンスに関して教職員の理解と意識向上がまだまだ十分とは言えないため、今後の課題である。

② 今後の改善方策

人材確保も視野に入れ、業務改善・業務整理に取り組んでいく。引き続き、業務についても各々が「この仕事の意味」「目的」を考え、精査する必要がある。

コンプライアンスについては学園統一の DVD を視聴し、意識を持たせる。学園としても更なる整備を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

医療機関・介護施設でも新入社員には個人情報、コンプライアンスについては勉強会を必ず実施している。新人にのみならず、全職員に年 1 回は個人情報の取り扱いやコンプライアンスの勉強の機会を設けている。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

現場実習先から評価を頂いている生徒・学校についての結果が活用出来ていない。

関連業界との連携がまだまだ不十分である。

② 今後の改善方策

実践力が不足しているという話も実習先から頂くため、外部との意見交換を積極的に実施し、カリキュラム変更やシラバスの見直しをしていく。引き続き現場実習先のアンケート結果を検証し、生徒の不足している能力を補い、学校として事前事後の指導を強化する。業界の訪問を積極的に行い、繋がりをもっと作っていく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

校外実習担当と教員がどんな実習をすべきかしっかり話し合い、よりよい実習にしていく必要がある。

生徒には事前に課題を与えて考えさせ、その上で実習をすることが望ましい。

実習指導者がどこまで関わるか、生徒の自主性をどこまで大切にすることが難しい部分でもある。

介護現場に実習に来て「自分はこの仕事に向いているか？向いていないか？」を考える生徒が多くなっている。

学校での振り返りで生徒に合わせた指導をしているので、非常にありがたい。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

就職率・検定取得率は低い数値ではないが、現状維持または向上するために継続的な対策が必要である。退学率は昨年に比べ上昇してしまったため、低減に関しては最重要課題である。目標喪失の退学者多くなっている傾向があるため、対策を検討する。

② 今後の改善方策

新人担任には担任指導者を設置し、きめ細かな生徒指導ができる体制を整える。ホームルームの前後に時間を取り、伝え方・指導の仕方などをアドバイスし、より良いクラス運営ができるようにする。

担任力向上のため、互いのホームルームを見学する。また姉妹校と情報交換を行い、成功事例を共有していく。

卒業生の卒業後の把握は同窓会にてアプローチをしていく。

③ 特記事項

就職率向上には「エリア担当制」を導入し、担任・エリア担当で就職をサポートしている。継続して求人を頂けるように繋がりを強化していかなければならない。訪問の質の向上も図る必要がある。

検定取得率向上には「検定 WEEK」を実施する。更に放課後の補習で合格ラインに達してない生徒に手厚いフォローを実施する。基礎学力が低下しているため、それに対する対策も考えていかなければならない。

退学率の低減には「新入生入学前オリエンテーション」で入学前後のギャップの払拭し、「新入生保護者説明会」にて学校教育への理解と連携を依頼する。入学後の不安解消として、個人面談の定期的開催、スクールカウンセラーの設置をしている。

・ 平成 27 年度就職率 96.7%(326 名/337 名)

・ 平成 27 年度退学率 4.6%(前年度 4.1%)

・ 主な検定結果(平成 27 年度)

医療事務検定1級合格率:89.4%・診療情報管理士認定試験合格率:95.8%・介護福祉士取得率:100%

④ 学校関係者評価委員会コメント

診療情報管理士と医師事務の知識を併せ持った人材が求められている。

DPCの知識はもちろんであるが、医事課で働く上でも診療情報管理士を持っていると強い。

どのように診療情報管理士の需要が増えていくかを継続的に把握しておく必要がある。

診療報酬請求事務能力認定試験は取得していると就職では強い。検定よりも認定試験取得が望ましい。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

皆精勤率向上・退学率低減には保護者との連携をもっと取る必要がある。

卒業生の支援体制もまだまだ不十分である。

② 今後の改善方策

早期に保護者へ挨拶も含め、担任より連絡を取り、情報共有・意見交換をしていく。行事参加への積極的な案内、生徒の学校の様子を定期的に伝えていく取り組みをする。

卒業生の再就職のサポートなど卒業後の繋がりを強化し、いつでも相談できる学校の体制を構築する。

③ 特記事項

人材確保の観点からも卒業生が教員として戻れる環境をもっと作っていききたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

卒業生訪問を継続的に実施すると良い。他の専門学校はあまり実施していない。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

実践力を育成するため実習室などの必要性も感じるが、授業中で実践力が身に付く取り組みが必要である。防災対策へ向けた取り組みが課題である。

② 今後の改善方策

カリキュラム変更やシラバスの見直しを進め、もっと現場に即した実践的な授業を取り入れていく。防災に関しては全教職員・全生徒に資料を配布し、避難器具の取り扱いなど意識と知識を向上する。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

校外実習で現場の空気を知ること大切であり、バックヤードを見ることが特に大事。

校外実習では学校から医療機関に「こういう生徒を育てたい、だからこういう実習をさせて欲しい」と依頼する必要がある。学校がどんな実習を求めているかをしっかりと伝える。

実習生には会計入力はさせられないが患者対応は任せられる。だからこそ、受付からの流れや医療関連知識をしっかりと持ち合わせる事が大切。生徒に実習前に患者様に流れの説明をする資料を作らせてはどうか？

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、学生募集に苦戦しているのが現状。

いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画が策定され、当該計画はH25年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。
- また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 3 2 1
自己評価結果を公開しているか	4 3 2 1

① 課題

外部からの意見を頂く機会が少ないのが課題。

② 今後の改善方策

外部の方から意見を頂く機会を増やし、外部評価も取り入れた上でより精度の高い改善を実行する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 1

① 課題

特定の学科でボランティアを推奨しているが学校全体としての取り組みとしてはまだまだ不十分である。

② 今後の改善方策

ボランティアの依頼は出来る限り全学科に告知し、積極的に参加するように促す。また、医療機関・施設と繋がりを強化し、ボランティア等のお声がけを頂ける関係を構築する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

ボランティアに関して平日は授業の関係で難しいので、土日の健康講座のお手伝いなどはどうか？

介護施設の夏祭りなどのお手伝いはやはり介護を学んでいる生徒でないと難しい

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

留学生の受け入れ体制を強化する必要がある。また、今後の実習・就職で施設との連携が必要となる。

② 今後の改善方策

在校生を活用し、留学生が入学しやすい、雰囲気を作る。

実習先・就職先との繋がりを強化していく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「皆精勤率向上・退学率低減」という重点目標を掲げているが、継続的な仕組み作りが必要である。まずは教職員の教員力向上を図り、多様な生徒に対応する私たちも力をつけていく必要がある。また、授業で関わる教科担当との連携も重要となるため、情報共有を積極的に行い、協力体制を構築していく。近年、心の悩みを抱えて入学する生徒が増えてきている。スクールカウンセラーにも相談しつつ、柔軟な対応をしていく必要がある。

改めて「専門学校は社会人育成の場」であるということを念頭に置き、学生から社会人へ成長させる学校でありたいと思う。

「選ばれる学校作り」を目指し「教務・就職・広報」において、生徒・社会が満足するサービスを提供したいと考えている。それと併せて、教員が「誇れる学校作り」を目指していきたいとも考えている。

《学校関係者評価委員より》

昨年に引き続き、教育機関にふさわしい活動はなされている。

今後に向けては教職員のスキルアップも必要なため、関係業界の方に特別講座などをしてもらおう。学術活動など対外的な活動をもっと積極的に実施していくべき。

以上